

はじめに

本県では、平成 24 年度から足掛け 5 年にわたり「芯の通った学校組織」の構築による学校改革を進めてきました。フェーズを区切ったスピード感ある取組と学校現場における真摯な努力により、学校の組織的課題解決力は着実に向上し、小学校で学力・体力ともに九州トップレベルを達成するなど取組の成果は確実に表れつつあります。

しかしながら、教職員の大量退職・大量採用時代を迎え、学校現場の世代交代が加速する中であって、学校の組織的課題解決力をいかに維持・向上させるかが喫緊の課題となります。学校マネジメントを機能させ持続的・発展的な教育活動の実現を目指す「芯の通った学校組織」の取組は、まさに学校の組織的課題解決力の向上を図るものであり、本県教育における学校運営の基本に据える必要があります。

また現在、学習指導要領の改訂や「次世代の学校・地域」創生プラン（教員の資質向上、学校の組織運営、学校・地域の協働に向けた改革）など、全ての学校に関わる教育改革が進められていますが、「芯の通った学校組織」の取組とこれら教育改革への対応を別物と考える必要はありません。

例えば、「芯の通った学校組織」における組織マネジメントは、学校の組織運営改革（「チーム学校」の実現）のベースとなるものです。また、「芯の通った学校組織」の取組の一環として推進してきた学校・家庭・地域の協働や、「付きたい力を意識した密度の濃い授業」の実現に向けた授業改善も、国の教育改革と方向性を同じくするものです。

したがって、「芯の通った学校組織」を基盤とした取組を継続・発展させていくことが、国の教育改革への対応にも繋がるものと捉えています。

このようなことを念頭に、本プランでは、「芯の通った学校組織」の取組に係る第 2 ステージとして、その取組深化を図り、大分県版「チーム学校」を実現することで教育水準の向上を図ります。本県では、組織マネジメントとしての「チーム学校」だけではなく、学校マネジメントの両輪として目標達成マネジメントを重視することから、「大分県版」とするものです。

本プランの実行に当たっては、管理職・主任等のミドルリーダーから全教職員にまで取組を浸透させること、そして学校マネジメント然り、授業改善然り「質」の向上を追求することが求められます。また、次期学習指導要領と同様に学校段階間の接続を重視して、学校マネジメント上も義務教育の 9 年、初等中等教育の 12 年等を見通しながら、学校種や学校規模、各地域の実情に応じた主体的取組を展開する必要があります。

もとより「芯の通った学校組織」の取組は、目標達成に向けた組織的取組を通じて、「チーム」として個々の強みを生かし、弱みを補い合う中で、学校教育活動を効率的・効果的に進め学校のパフォーマンスの最大化を図るものです。このような意識の下、本プランで提示する各種ツールを活用した取組の工夫・改善により、子どもたちの力と意欲の更なる向上に繋げることが求められます。

本県の全ての子どもたちが未来を切り拓く力と意欲を身に付けることができるよう、引き続き市町村教育委員会との緊密な連携の下、本プランに沿った取組を着実かつ強力に推進することにより、「教育県大分」の創造を目指します。